

阿部 秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

中上級レベルの学生を対象としており、今学期のレギュラーコースでは最も上のクラスである。10名の学生だが日本語力に差が見られた。本科目は1週間に1コマ開講された。テキストは『試験に強くなる！中上級学者のための日本語読解ワークブック』（アルク）を使用した。中文（600字程度）や長文（1200字程度）の文章把握と用いられている表現（文法）・語彙の理解を第一の目標とする。第二の目標は「漢字（漢字語）」の学習である。以前は別科目であったが、読解の文章と関連付ける方が学習効果があがると考えられるため、今学期はこのクラスで教えることとなった。

2. 授業内容

授業で取り扱う文章をあらかじめ指示し、予習を義務付けた。指示した文章は、大学・高校入試に出題されている著者、日本人によく読まれている著者が執筆したものを中心に選んだ。また、その文章に出てくる漢字語をピックアップし、リスト化したものを学生に配布した。

授業においては、内容把握・背景理解は当然だが、辞書だけではわかりにくいものや、熟語・慣用句に着目して学習した。なお、辞書を授業では常に携帯し、不明な点はまず自分で調べるように指示した。

漢字・漢字語については日本語能力試験N2レベルの漢字・漢字語を文章からピックアップした（漢字語数250語、漢字158字）。N2か否かの判定は「日本語読解学習支援システム リーディングちゅう太」¹のレベル判定を使った。なお、学生に配布したリストにはN1やN3以下の漢字・漢字語も挙げ、必要に応じて学習するように伝えた。

3. 成果と今後の課題

アンケートでは「だいたいわかった」6名、「よくわかった」4名であった。難しさに挑戦する学生が多くいたが、日本語力が比較的低い学生に対する説明への配慮をどこまでするかが今後の課題である。漢字・漢字語は今回の方法でいいと考える。

¹ <http://language.tiu.ac.jp/> 判定は旧日本語能力試験のレベル。2級レベルをN2とした。